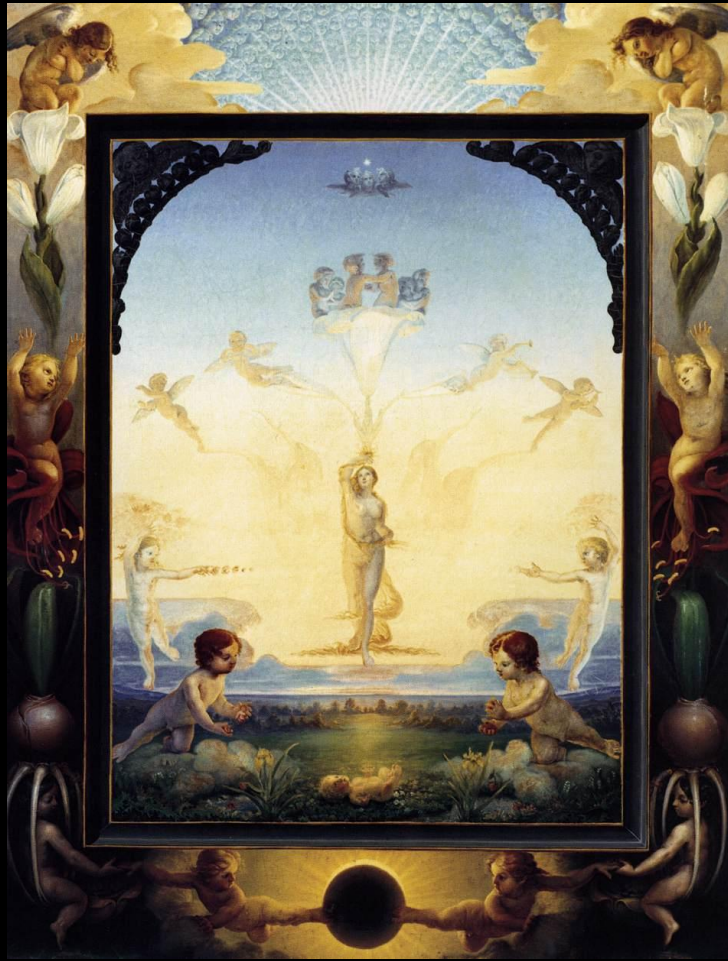


Saturday,
3rd October
2026

2026年10月3日(土)10時～16時半

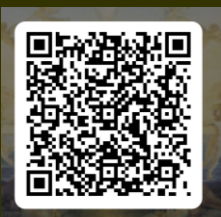
ハイブリッド開催



Philipp Otto Runge, *Der kleine Morgen*, 1808, Hamburger Kunsthalle

上智大学ヨーロッパ研究所主催

シンポジウム 「アレゴリーの歴史」



お申込みQR

会場：上智大学四谷キャンパス
(中央図書館8階L-821)
事前申込：要(QRコードよりお申込みください)
使用言語：日本語
対象：学生、教職員、一般

「アレゴリーの歴史」

プログラム

2026年10月3日(土) 上智大学四谷キャンパス中央図書館L-821 (ハイブリッド開催)

- 10:00-10:15 開会・導入 「アレゴリー概念の変遷」 大田 浩司 上智大学文学部ドイツ文学科教授
- 10:15-10:50 発表① 「奇蹟譚としての『パルチヴァール』—無知のアレゴリーと父の不在をめぐって」
渡邊 徳明 日本大学松戸歯学部准教授(25分発表+10分質疑)
- 10:50-11:25 発表② 「ドイツ啓蒙期のアレゴリー—バウムガルテン、ヴィンケルマンを中心に」
桑原 俊介 東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学准教授(25分発表+10分質疑)
- 11:25-11:40 休憩
- 11:40-12:15 発表③ 「アレゴリー表現から見るゲーテの『ファウスト』—ゲーテの作品に見られるバロック性を探る」
橋本 由紀子 東京理科大学、明治大学非常勤講師(25分発表+10分質疑)
- 12:15-13:15 昼休み
- 13:15-13:50 発表④ 「フリードリヒ・シュレーゲルと〈アレゴリー〉概念の諸相」
武田 利勝 早稲田大学文学学術院教授(25分発表+10分質疑)
- 13:50-14:25 発表⑤ 「愛する対象はどれも、楽園の中心点である」—ノヴァーリスにおけるアレゴリー
概念について」高橋 優 上智大学文学部ドイツ文学科教授(25分発表+10分質疑)
- 14:25-14:40 休憩
- 14:40-15:15 発表⑥ 「アレゴリーの商品—ベンヤミンのバロック論と資本主義論について」
茅野 大樹 筑波大学人文社会系助教(25分発表+10分質疑)
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-16:30 全体討論

登壇者



大田 浩司(おおた こうじ)
上智大学文学部ドイツ文学科教授、上智大学ヨーロッパ研究所所員
専門分野:近代ドイツ叙情詩、近代ドイツ詩学・美学
発表タイトル:「導入:アレゴリー概念の変遷」



渡邊 徳明(わたなべ のりあき)
日本大学松戸歯学部准教授
専門分野:ドイツ語圏中世文学・中世受容 発表タイトル:「奇蹟譚としての『パルチヴァール』—無知のアレゴリーと父の不在をめぐって」



桑原 俊介(くわはら しゅんすけ)
東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学准教授
専門分野:西洋近代美学
発表タイトル:「ドイツ啓蒙期のアレゴリー—バウムガルテン、ヴィンケルマンを中心に」



橋本 由紀子(はしもと ゆきこ)
東京理科大学、明治大学非常勤講師
専門分野:ドイツバロック文学・ドイツ古典主義文学
発表タイトル:「アレゴリー表現から見るゲーテの『ファウスト』—ゲーテの作品に見られるバロック性を探る」



武田 利勝(たけだ としかつ)
早稲田大学文学学術院教授
専門分野:ドイツ・ロマン派の思想
発表タイトル:「フリードリヒ・シュレーゲルと〈アレゴリー〉概念の諸相」



高橋 優(たかはし ゆう)
上智大学文学部ドイツ文学科教授、上智大学ヨーロッパ研究所所員
専門分野:ドイツ・ロマン主義の文学と思想
発表タイトル:「愛する対象はどれも、楽園の中心点である」—ノヴァーリスにおけるアレゴリー概念について」



茅野大樹(ちの ひろき)
筑波大学人文社会系助教
専門分野:ドイツ思想史
発表タイトル:「アレゴリーの商品—ベンヤミンのバロック論と資本主義論について」

